



食品TOPICS

私たちの身近な問題である「食」をめぐる最新の情報を紹介します。

「口蹄疫」 (こうていえき)

平成9年3月に、日本最大の豚肉輸入先である台湾で豚の口蹄疫が発生し、台湾の総飼育頭数の1/3を超える390万頭(5月末)が処分されました。

このことは台湾の養豚業に大きな被害を与えたうえ、日本向け輸出が全面的にストップしたことにより、わが国の豚肉供給価格が上昇するなど、話題になりました。

日本における豚肉の輸入先

輸入国	総量(トン)	割合
台湾	266,000	41%
アメリカ	142,000	22%
デンマーク	119,000	18%
その他	126,000	19%
合計	653,000	100%

(1996年大蔵省貿易統計)

口蹄疫ってなに？

口蹄疫は、牛、豚、めん羊などの偶蹄類(ひづめが2つある動物)に感染し、口や蹄(ひづめ)に水泡を形成する、伝染性の極めて強いウイルス性の急性伝染病です。

口蹄疫のウイルスは、ほこりなどに付着して風に乗って飛散し、大発生を引き起こすこともあり、家畜の病気の中で最も恐れられています。

口蹄疫は現在でも世界各地で発生していますが、日本では明治の末期以来発生を見ていません。

台湾においても68年間発生していませんでしたが、今回の発生原因については、外国旅行者による媒介や汚染国からの動物の内臓の持ち込みなどが疑われています。

人への感染

口蹄疫は、家畜に対して重篤な症状を引き起こしますが、人には感染せず、仮に口蹄疫に感染した動物の肉を食べたとしても人体に影響はありません。

日本の対応

わが国としては、台湾からの豚肉等の輸入禁止や防疫の徹底、食肉衛生検査の強化を図るなどの対策を行っています。

私たちが海外旅行の際に、汚染地域からの動物や肉の持ち込みには注意が必要です。

